

日本産業衛生学会 四国地方会 地方会ニュース

発行責任者 菅沼 成文
発行 〒780-8570 高知市丸ノ内一丁目2-20
高知県庁総務部職員厚生課内
日本産業衛生学会四国地方会事務局
事務局 杉原由紀

第 95 回日本産業衛生学会開催報告

企画運営委員長 菅沼 成文



「自由は土佐の山間より出ず」といわれた自由民権運動の発祥の地、南海道の果てにある高知市にて、21年ぶりに第95回日本産業衛生学会を開催させていただきました。新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延は産業界に大きな変化をもたらしました。その影響は、働く人の健康を守る産業保健活動にも着実に広がっています。今回、「新しい時代の働き方と産業保健：

持続可能な社会を目指して」というテーマのもと、少し不安も感じながら、実際に顔を合わせての議論を提供させていただきました。新しい時代を予感させる内容の教育講演、メインシンポジウム、そして、シンポジウムを用意させていただき、3985名の参加登録をいただき、現地にも1700名ほどの方に足を運んで頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

バーチャルリアリティ（VR）を取り上げた教育講演では、松村雅代先生（BiPSEE社長、高知大学特任教授）がこれまでのMedical Virtual Realityの研究を振り返りながら第三世代の認知行動療法をデジタル治療薬として開発する取り組みをご紹介いただきました。続くメインシンポジウムにおいては、「新しい働き方」に挑戦すべく、森晃爾理事長には、敢えて四万十町の老舗美馬旅館からワーケーションの形でご登壇いただきVUCAの時代における産業保健についてご議論いただきました。心理学にVRを活用している繁樹博昭教授（高知工科大）、VRプラットフォームStylyを世界中で提供する山口征浩先生（Psychic VR Lab社長、高知大特任准教授）がコロナ禍で常識を変えざるをえない状況の中でのVRを活用した新たな仕事のスタイルを紹介されましたが、学会員の皆様には良い刺激となったのではないのでしょうか。

日本産業衛生学会は、2019年に創立90周年を迎え、100周年を迎える2029年までの10年間において、働く人の健康を通じて社会の健全な発展に貢献するために、変化するニーズを捉えた学術活動と最新の科学技術を活用した、全ての働く人を対象とする実践活動を推進しています。産業保健研究者が新たなテクノロジーを貪欲に学び、現場で活用可能なツールを産学連携で提案していくことが必要で、現場の実務家との共創によって、初めて、新しい時代に要求される産業保健サービスを提供できると考えます。

日本産業衛生学会は世界の産業保健を独自の視点から先導する立場にあると考えます。恒例となった、国際セッションも丸一日、職業性肺疾患の画像診断、一般講演、衛生管理に加え、外国の閣僚経験者の講演をご用意しました。John E. Parker教授に座長をお務めいただいた職業性肺疾患の画像診断に関わる国際シンポジウムは、ILO国際じん肺X線分類改定作業についてRobert A. Cohen教授のご報告、世界貿易センターの同時多発テロ後の救援者の追跡調査を行なっているRafael de la Hoz教授の報告、国際じん肺HRCT分類を国の基準としているKurt G. Hering博士からの報告など、密度の濃い時間となりました。第95回学会の開催にご尽力頂いた地方会の諸先生方に重ねて御礼申し上げます。



第 65 回中国四国合同産業衛生学会開催報告

香川大学医学部公衆衛生学 平尾 智広

令和 3 年 11 月 20 日～21 日に、第 65 回中国四国合同産業衛生学会を開催いたしました。第 65 回の学会は当地方会としては初めてのオンライン開催で、従来とは異なることが多々ありましたが、100 名の方のご参加をいただき無事終えることができました。皆様方の御協力に感謝申し上げます。

さて学会の内容ですが、初日の部会研修会では、例年通り 4 部会から研修会を提供していただきました。すべてオンラインでの研修会となりましたが、各部会の先生方のご尽力で大変スムーズに運ぶことができました。内容も大変濃いもので参加者からも高い評価をいただきました。また同時に開催した産業医講習会（産業医部会、産業衛生技術部会）では対面受講が必須となっていることから、特別に聴講室を設けさせていただきました。オンラインを駆使した講習会の運営でしたが、各部会の先生方のご協力でもこちらも大変スムーズに進めることができました。

2 日目午前是一般演題の発表でした。登録演題数は 8 題でしたが、それぞれの発表に十分な時間をかけて討議をすることができました。また午後の特別講演では、国際医療福祉大学の和田耕治先生より、新型コロナウイルス感染症の最新の知見及び職域での諸問題についてご講演をいただきました。また香川大学の宮武伸行先生からは、事業所における具体的な新型コロナウイルス感染症対策の取り組み及びその課題についてわかりやすくご解説いただきました。

今回の学会は完全オンライン開催となりましたが、その他にも可能な限りのペーパーレス及び電子化を進めて参りました。今後も対面オンラインの併用形式の学会が続くと思われまます。第 65 回地方会の経験が次年度以降のスムーズな開催の一助となれば幸甚です。

第 67 回中国四国合同産業衛生学会のご案内

第 67 回中国四国合同産業衛生学会長

三宅 吉博（愛媛大学大学院医学系研究科疫学・公衆衛生学講座）

向寒の候、皆様におかれましてはますますご清栄のことと拝察申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。次年度、第 67 回中国四国合同産業衛生学会を愛媛県松山市で開催させて頂くことになりましたので、ご報告申し上げます。

会期は令和 5 年 12 月 2 日（土）、12 月 3 日（日）の二日間、原則的にオンラインにて開催予定です。日本医師会認定産業医の研修会場は愛媛大学城北キャンパスに設置予定です。メインテーマとしまして、「すべての就業者に産業保健を届ける」と致しました。いろいろと至らぬ点が生じるかと思ひますが、学術的に意義のある学会となるよう誠心誠意準備をしたいと考えております。

愛媛労働局の労働衛生指導医として、毎年数カ所の事業場を訪問していますが、産業保健のレベルは極限の格差があると痛感しております。両立支援どころか、産業保健の第一歩も踏み出していない小規模事業場は山のように存在するのではないのでしょうか。今一度、産業保健の基本を見つめ直すべきと考えています。このような観点で、特別講演を 2 演題予定いたしたいと考えております。

一般演題につきまして、皆様の日頃の産業保健活動やご研究の成果をご発表頂き、熱心なディスカッションが展開されることを期待しております。是非とも、一般演題を多数応募頂きますよう、心より願ひ申し上げます。

日頃の業務でお忙しいことと存じますが、是非、産業医の皆様におかれましては、松山にお越し頂きますよう、何卒、よろしく願ひ申し上げます。

第 8 回四国地方会産業医部会セミナー報告

一般財団法人創精会 松山記念病院 感染管理・健康管理室 昇 淳一郎

令和 4 年（2022 年）3 月 27 日（日）14 時～15 時に、四国地方会における当部会独自の事業として、「第 8 回日本産業衛生学会四国地方会産業医部会スプリングセミナー」を開催しました。当セミナーは四国地方会において持ち回りで主に夏に実施していますが、今回はスプリングセミナーとして、オンラインで開催しました。

ゲストスピーカーには VISION PARTNER メンタルクリニック四谷 院長の尾林誉史先生をお招きいたしまして、メンタルヘルス不調労働者に対する支援のあり方についてお話をいただきました。

今回のセミナーのテーマは、「産業保健現場における”真実の瞬間”を考える」でした。この「真実の瞬間」とは、北欧の航空会社の CEO が自身の著書（ヤン・カールソン著/堤 猶二訳：真実の瞬間、東京：ダイヤモンド社、1990）のタイトルに使用した言葉で、顧客の消費行動を規定する決定的瞬間を指すマーケティング分野の用語です。セミナーでは、この用語を切り口に、活発な討議が行われました。ゲストスピーカーの尾林先生からは、COVID-2019 流行下で特有の労働者支援のあり方についての指摘が行われ、参加者間で新たな視座を共有することができました。

第 9 回以降のセミナーにおきましても、踏み込んだテーマ設定で引き続き開催してまいります。秋の産業医部会研修会のみならず、この部会独自セミナーにつきましてもご参加の程、宜しく願ひいたします。



2022 年度産業衛生学会四国地方会産業看護部会研修会に参加して

日亜化学工業株式会社 保健師 長野重里

2022 年 8 月 20 日（土）第 4 回産業衛生学会四国地方会産業看護部会研修会が開催されました。アサヒグループジャパン株式会社 健康支援センター統括保健師・マネージャー 住徳松子先生をお迎えして、テーマは「健康経営銘柄・優良法人の今～産業保健看護職としてできることを学ぼう～」をご講義して頂きました。

今回もオンライン（ZOOM）開催となりましたが、約 50 名の方が参加されました。

住徳先生から健康経営とは、従業員の健康保持・増進の取組が、将来的に収益性等を高める投資であるとの考えの下、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること。それに対して産業保健看護職の関わりとして、日々行う保健指導などの業務が評価された結果が、健康経営銘柄選定に繋がるため、エビデンスに基づいた活動に努める必要がある。とお話をいただきました。

従業員の健康管理を企業戦略の一環と捉える動きが広がる中、健康経営を推進していくのに、産業保健看護職の役割は重要であり、健康経営専門部署には欠かせない存在になっています。専門知識をしっかりと身につけることは大前提ですが、ビジネスパーソンとして PDCA を回す力も求められています。健康経営という大きなプロジェクトの一員として携わるうえで、日々の産業保健看護職の業務に加え、多岐に渡る専門性を深めることが大切だと身に染みて感じ、とても有意義な研修となりました。

2022 年度産業衛生学会四国地方会産業看護部会研修会を企画して

日亜化学工業株式会社 保健師 多賀律子

四国地方会産業看護部会では、年に 1 回各県持ち回りで研修会を開催しています。第 4 回目となった本年は、初めて徳島が担当しました。企画・運営に不慣れではありましたが、他県の役員の方々にも助けて頂き、多くの方々に参加していただく事ができました。講師の住徳先生をはじめ、ご協力を賜りありがとうございました。来年は高知です。コロナ禍でオンライン開催が続いておりますが、皆さまに直接お会いできる事を願っております。

ダイバーシティ推進委員会活動報告

ダイバーシティ推進委員会委員 齋藤 恵

第 95 回日本産業衛生学会（高知）会期中の、5 月 26 日（木）にダイバーシティ推進委員会フォーラムを開催しました。「会員のダイバーシティを考慮した学会活動 -日本医学会連合の動きと日本産業衛生学会での活動-（座長:西賢一郎委員長、野原理子副委員長）」をテーマに、会場参加・オンラインの併用での開催となりました。

日本医学会連合におけるダイバーシティ&インクルージョンの取り組みについて名越澄子先生（日本医学会連合ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会委員長 埼玉医大）より「日本医学会連合によるダイバーシティ推進の取り組み」として、連合所属学会内の女性活躍の現状や、日本内科学会における女性・若手活躍を推進する試みが報告されました。

続いて、森晃爾理事長（産業医大）からの指定発言では、100 周年を見据えたミッションと重点活動事項、およびその取り組みが紹介されました。また、若手会員の学会運営参画への期待が述べられました。

能川和浩先生（千葉大）の「関東地方会での活動紹介」では、多職種連携の会の活動および子連れ研究会の開催が紹介されました。また、例会のオンライン開催や、初めてオンライン開催の第 295 回例会アンケート結果より研修会のオンライン化は好評であったことなども報告されました。

岩根幹能先生（日本製鉄）の「近畿地方会での取り組み」では、若手研究者の交流機会として大学・部会・研究会の連携プロジェクトが発足し、若手会員による大学（医学部）の研究室訪問やワールド・カフェ開催、若手の学会発表支援などの活動が紹介されました。

全体討論では、好事例の周知やホームページの活用についても議論がなされ、現在ある学会内の仕組みに落とし込むことができる内容は順次盛り込んでいくことで会員のダイバーシティや学会活動の活性化はさらに推進するといったご意見を頂戴し、盛会に終了しました。

委員会では学会参加を促すためのヒント集第 2 弾として、「学会へ行こう！-オンラインでの学術集会参加のヒント集-」を、地方会選出委員を中心に、オンラインでの学会参加のメリットや活用法、逆に困った点などの体験を話し合い形にした文書を作成しました。学会 HP の会員ページから PDF を入手できます。ぜひご覧ください。

第 32 回日本産業衛生学会全国協議会（札幌）では、9 月 30 日（金）に、「私の学会活動-連携と協働-」をテーマに、フォーラムを開催しており、高知市の沼田和治先生（うるぐす歯科医院）もご講演されました。今後も当委員会では総会・協議会でのフォーラムや委員会企画のオンラインセミナーを予定しております。多くの方にご参加いただき、活動へのご意見等をお願いしたいと思います。

産業医部会報告

日亜化学工業(株)健康管理センター 齋藤 恵
高知県庁総務部職員厚生課 杉原 由紀

株式会社タダノ 赤澤 百合子

2021 年度の産業医部会活動について報告します。

1. 第 8 回四国地方会産業医部会セミナーの開催

2022 年度に繰り越しとなったが、3 月 27 日(日)に「スプリングセミナー」として「産業保健現場における”真実の瞬間”を考える」をテーマに、昇淳一郎四国地方会産業医部会長を講師に、VISION PARTNER メンタルクリニック四谷 院長の尾林誉史先生をゲストスピーカーとしてオンライン開催した。このセミナーは産業医部会員限定。

2. 産業医部会研修会の開催

第 65 回中国四国合同産業衛生学会開催に合わせて、産業医部会研修会を開催した。

【講演 1】「最近のダイバーシティの動向と産業医の役割」 齋藤恵（日亜化学工業(株)産業医室）

【講演 2】「産業保健データと AI -ピープルアナリティクスの視点から-」大村大輔(三菱ケミカル(株))

3. 日本産業衛生学会産業医部会幹事会報告

1)第 1 回：2021 年 5 月 9 日(Web)

2021 年度の事業計画・予算等についての審議が行われ、各幹事の役割分担の確認、第 95 回学会時の産業医フォーラムの内容他について幹事間で情報・意見交換を行った。

2)第 2 回：2021 年 12 月 3 日(第 31 回全国協議会開催時)

専門医制度、プロフェッショナルコース等に関する意見交換が行われた。またポスター賞の選考委員と選考基準についての確認がされた。

3)第 3 回：2022 年 2 月 20 日(Web)

2022 年度の事業計画、社会医学系専門医制度における指導医の更新に関する説明等がされた。

産業看護部会報告

2021 年 9 月 4 日（土）オンライン開催にて第 1 回日本産業衛生学会産業看護部会学術集會が行われました。テーマ「産業保健看護の未来を創るープロフェッショナルリズムの探求ー」でした。2020 年 6 月開催予定でしたが、コロナ禍により 1 年以上の延期を経て、変化する労働現場の中で、産業保健看護職のプロフェッショナルリズムを改めて考える機会になりました。多様な働き方を支えていくため、産業保健看護職は個人の健康だけでなく、集団・組織の健康をとらえ、常にそれを連動させながら健康課題の解決や健康づくりを図っています。また、経営層や労務部門との連携は強くなり、健康経営を推進していくにも看護職の役割は大きくなっています。メインシンポジウムでは、事業者の立場から東泰弘先生（富士通株式会社）から産業保健看護職の強みは、経営者・所属長や人事スタッフでは、入手することができない労働者の健康に関する生の情報を、健診フォローや面談など日常業務で、リアルタイムで入手できることであり、その情報から、問題を事例化・類型化して、速やかに産業保健施策に反映させていくのも重要な役割との話がありました。「労働者の健康の保持・増進」を通じて、労働者一人ひとりと会社の経営をつなぐという、産業看護部会会長五十嵐先生の言葉で「見て・繋いで・動かす創造性と柔軟性」が求められていることを再認識しました。

現在、産業看護部会では、産業保健看護の新定義を検討しています。今後は、パブリックコメントを募集予定です。自分たちの機能や役割を自ら説明できるよう、引き続き取り組んでいきたいと思っています。

産業歯科保健部会報告

うぐるす歯科医院 沼田 和治

令和4年度の四国産業歯科保健部会活動についてご報告致します。

■第 95 回日本産業衛生学会全国大会 歯科保健部会が開催されました。

【日時】令和4年5月28日(土)

【開催場所】高知会館 白鳳の間(一部オンデマンド配信)

【テーマ】明日を創造する産業歯科保健～地域との連携～

① THP 指針の改正とその背景

山本秀樹(日本歯科医師会 常務理事)

② 歯科特殊健診についての解説

木下隆二(木下歯科医院)

③ 新潟県における産業歯科保健活動～歯科医師会の立場から～

木戸寿明(新潟県歯科医師会 常務理事)

④産業保健師と歯科医師の協働(第3報) -THPにみる事業外資源の活用-

富永沙絵子(富士通コミュニケーションズ(株)保健師)

沼田和治(高知県歯科医師会)

■第 32 回日本産業衛生学会全国協議会 歯科保健部会が開催されました。

【日時】令和4年10月1日(土)

【開催場所】札幌コンベンションセンター(一部オンデマンド配信)

【テーマ】多職種連携で目指す労働者の口腔保健向上対策

① 山形県歯科医師会の産業衛生活動について

安藤栄吾(山形県歯科医師会 常務理事)

② 最近の制度改正の流れから今後の多職種連携による口腔保健向上対策を考える

上條英之(東京歯科 歯科社会保障学)

③ 企業外労働衛生機関の保健師としての歯科保健の取り組み

國澤しおり(公益財団法人北海道労働保健管理協会 産業保健部 保健師)

当社における歯周病予防の試み-健保とのコラボヘルス事業から-

産業衛生技術部会報告

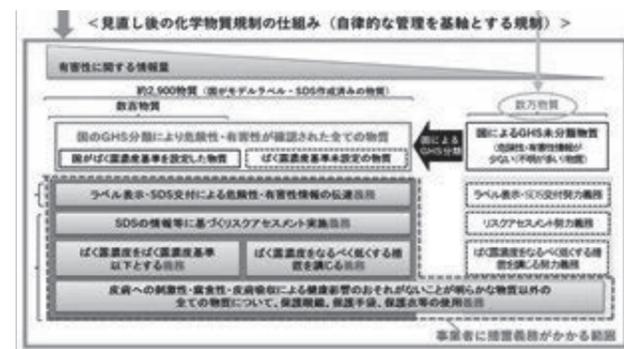
愛媛大学 浜井 盟子

令和4年5月31日に、「化学物質の自律管理」に係る告示がありました。化学物質を特定し、細部まで法令で定めていた我が国の安全衛生に係る化学物質管理の大転換が始まったのです。アメリカ型の専門家の配置・欧州型のリスクアセスメントの義務化を取入れ、管理体制と責任体制が大きく変わります。

各業界で説明会が開催され、実務者は仕組みづくりに奔走しています。特に「事業場の業種・規模要件はなし」とされ、50人以下の中小企業にとっては、化学物質管理者(化学物質の管理に係る業務を適切に実施できる能力を有する者)の選任が課題となっており、人材育成が急務です。

このような社会情勢を踏まえ、四国地方会産業衛生技術部会は、情報の集約を目的として、新規にHPを立ち上げます。厚生労働省からの情報、中央労働災害防止協会の情報、労働安全衛生総合研究所の情報、各業界からの情報、四国地区の企業の情報等をまとめたアーカイブ的な情報発信をする予定です。学会員だけでなく、四国の企業等の安全衛生担当者との交流の場になることを期待しています。

コロナ禍で、新たにオンラインによる活動方法が確立されました。この活動方法を使った交流モデルを構築し、技術部会は、四国地区の産業安全・産業衛生に貢献いたします。ご支援よろしくお願ひいたします。



○2021 年度会計報告(2021 年 3 月～2022 年 2 月)

2021年度会計報告 (2021年3月～2022年2月)

科目	決算	科目	決算	科目	決算
事業収益	250,000	事業費	1,103,745	委員会費	
協賛金等		臨時雇賃金	108,000	研究会費	
参加登録料収益	250,000	会場費	95,850	委託費	50,000
資格認定収益		旅費交通費	12,000	国際交流費	
その他事業収益		通信運搬費	2,286	開発保守費	
受取補助金等	1,036,000	印刷製本費		雑費	312,845
受取本部助成金	1,036,000	懇親会費		管理費	7,667
受取国庫助成金		消耗品費		給料手当	
受取地方公共団体助成金		機関誌印刷費	40,932	理事幹事会費	
受取民間助成金		機関誌編集費		旅費交通費	
受取負担金		機関誌発送費		通信運搬費	
受取活動費		広報渉外費		役員改選費	
受取寄付金		研究費		印刷製本費	
受取寄付金		諸謝金	81,832	消耗什器備品費	
雑収益	207,637	学会助成金	200,000	消耗品費	6,897
受取利息	17	協議会助成金		会員報奨費	
雑収益	207,620	協議会助成金		広報渉外費	
		大会研修会助成金		委託費	
		部会助成金	200,000	雑費	770
		地方会助成金		経常費用計	1,111,412
経常収益計	1,493,637				

地方会長・代議員選挙 報告

四国地方会 選挙管理委員会 委員長 宮武 伸行
委員 赤澤 百合子
委員 野村 圭介

10月に実施した地方会長・代議員選挙の結果は以下の通りです。

○地方会長

菅沼 成文(高知)

○代議員(16名)

近藤 亨子(愛媛) 昇 淳一郎(愛媛) 浜井 盟子(愛媛) 三宅 吉博(愛媛)

宮本 幸枝(愛媛) 赤澤 百合子(香川) 平尾 智広(香川) 川上 美紀(高知)

菅沼 成文(高知) 杉原 由紀(高知) 野村 圭介(高知) 槇本 宏子(高知)

斉藤 恵(徳島) 多賀 律子(徳島) 中瀬 勝則(徳島) 浜 恵美(徳島)

次点:宮武 伸行(香川) 次次点:岩崎 美樹(香川)

◆会員の異動◆

【入会】 山内 誓(愛媛) 岡田英作(愛媛) 山崎慶子(高知) 井上侑香(香川)

狩俣昌平(高知) NLANDU NGATU(香川) 武内佑磨(高知) 小笠原大介(高知)

【転入】 上松容子(愛媛←新潟)

【退会】 廣瀬和美 細川美奈子 窪田哲也 清水博 玉木直文 上松容子

○第 95 回日本産業衛生学会（2022 年 5 月 25 日（水）～5 月 28 日（土））

▼ようこそ高知へ（高知県民文化ホール）

▼総会



▲メインシンポジウム 1



▲特別講演（藤川球児氏）



企業展示▶

★★★ 編集後記 ★★★

第 95 回日本産業衛生学会は 3900 人あまりの参加をいただき、無事に開催することができました。ハイブリッド開催でしたが、現地にたくさんの参加者をお迎えし、自由集会、企業展示やランチョンセミナー、懇親会にも想定以上のご参加をいただきました。マスク越しではありますが、久しぶりに楽しい時間を過ごすことができたのではないかと感じています。四国地方会の会員の皆様には、たくさんご支援とご協力をいただき、感謝を申し上げます。

現在、日本産業衛生学会の 9 つの地方会のうち、ホームページを持っていないのは四国地方会のみとなっています。この第 95 回学会の様々な財産を元手に、四国地方会もホームページを立ち上げるように準備中です。近日中には公開予定ですので、今しばらくお待ちください。(S)